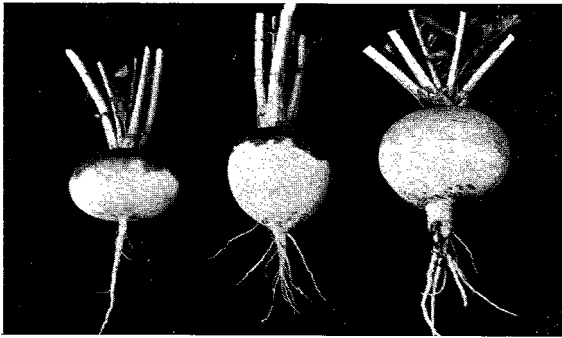


雪印が
お奨めする 育成選抜品種の解説

飼料用かぶ (雪印改良紫丸かぶ)

(一) 改良の目的は多収、貯蔵力の増大。

かぶは飼料用根菜の代表的なもので、畜の嗜好がよく、栽培容易、生育期間短くしかも多収であるなど幾多の優れた点を備えており、家畜飼育者は多少の差こそあれほとんどの方が栽培している極めて重要な



写真左より下総かぶ、雪印改良紫丸かぶ、紫かぶ (在来)

作物であります。そこでこの重要作物のかぶを更に多収でしかも貯蔵性の高いものに改良しようとした。

(二) 育成経過

北欧産のパーブルトップを材料として昭和二十年より多収、貯蔵力の大きい肉質堅密、乾物量多いものを目標として、まず円型厚肉(従来の薄肉扁平のいわゆるカブラ型を排し)の現象型(Pheno type) 選抜を行ない。さらに長期貯蔵を行なって貯蔵性を調査し、これら選抜個体については系統集団淘汰(Pedigree mass selection)を繰返し、爾後、原々種段階において集団淘汰(Mass selection)を継続しているものです。

(三) 特性概要 (別表参照)

一般市販の紫かぶに比しては初期生育が若干遅く、従って生育日数は九〇日程度の幾分長きを要し(このことは肉質堅密、しいては乾物量多く貯蔵性の大きな事に関係するものと思われま)すが、飼料用かぶとしては早生系統で小岩井かぶより二〇日、下総かぶよりは三〇〜四〇日早く成熟

します。更に早春まで相当の低温に遭うも抽苔なく、(低温感応性鈍く)飼料用かぶの唯一の春まき品種でもあります。

(四) 利用上の注意

(1) 寒冷地においてはグリーントップ系かぶ(下総、小岩井かぶ等)よりも生育日数短く貯蔵性に富んだものを多収できます。

(2) 貯蔵力は北海道においては地下貯蔵

雪印改良紫丸かぶ特性概要表 (上野幌育種場)

(一) 秋まきの場合

品 種 名	播 種 期		採 取 期		特 性 調 査		個 体 調 査		備 考
	月	日	月	日	根 色	肉 質	根 重	根 長	
雪印改良紫丸かぶ	八	四	二	三	直立白緑	紫	稍堅密	少	五三・二
在来種紫かぶ	八	四	三	三	直立白緑扁球	紫	稍軟中	少	四六・六
グリーントップ小岩井かぶ	八	四	三	三	直立白緑	紫	稍軟中	多	四九・五

(二) 春まきの場合

品 種 名	取 収 率		個 体 調 査		一〇日当収量		備 考
	日 数	%	根長	根重	根重	根重	
雪印改良紫丸かぶ	七	三〇・三	一七・三	一・五九	一・五九	一・五九	根重収量割合は同
下 総 か ぶ	七	二七・七	一七・三	一・五九	一・五九	一・五九	根重収量割合は同

備考 1 播種三月二六日 2 畦幅、株間五〇×二二 3 施肥量一〇〇×当、確安一〇〇×、過石二八×、硫加二二×

庫、屋外窖で翌春五月頃まで貯えられま。もの比して大であって、飼料成分割合が高い。以上の諸点から考慮して寒冷な東北、北海道は勿論、府県高冷地の春夏秋作、また温暖地の秋冷期の短期栽培に利用し有利な品種です。